香川県農業試験場研究報告　第 23 号(1973 年 9 月)　 38-42

温州ミカンの成熟期における果皮の生理障害に関する研究

(第 1 報)　障害発生の実態調査と障害果の観察

原田豊

１．1962 年および 1967 年の夏秋季の長期にわたる乾燥とそれに続く降雨ののちに,10 中旬から 11 月にかけて,温州ミカンの果面の一部が茶褐色になったり,果面にえそ様の斑点を作る生理障害が発生したので,その実態を調査した。

２. 1967 年に行なった調査の結果,耕土の浅い園,南西向きの園,日照の多い園,標高の高い園,無かん水園などに障害果が多かった。また,成木や老木および結実の多い樹に発生が多かった。

３．障害果は樹冠上部にもっとも多く,また,小さい果実より大きい果実に,直花果より有葉果に多発生した。

４．障害果は,無障害果に比べて,可溶性固形物含量およびクエン酸含量が高かった。また障害果は貯蔵中に発生した病菌によって大部分が腐敗した。

５．果皮の障害部分を検鏡すると,フラベド組織の細胞が萎縮し,不整形になっていた。